



千住金属工業株式会社

〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
TEL.03(3888)5151(代) FAX.03(3870)3032

www.senju.com

©2021 Senju Metal Industry Co., Ltd. All rights reserved.

千住金属工業グループのCSR情報
www.senju.com/ja/csr/

メールアドレス
web@senju.com



SMIC CSR REPORT 2021

千住金属工業グループ CSR報告書



FSC®が定める責任ある森林管理の原則に基づき認証された森林からの原材料とその他管理された原材料から作られたFSC認証紙を使用しています。またインクは揮発性有機化合物を含まないNon-VOCインキを使用し、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールを含む湿し水が不要な東レ水なし平版®で印刷しています。



撮影: 栃木事業所 鬼怒ヶ丘工場

LOOK AT THE WORLD

編集方針

千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努め、マテリアリティを特定しています。本報告書はGRIスタンダードの要求項目に沿って制作し、事業を通じて社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

対象期間	2020年4月1日～2021年3月31日（一部2021年4月以降の情報も含まれます）
対象範囲	グループ会社 25社（非連結子会社と関連会社を含む。）ただし、社会貢献活動は別途明記
対象変動	連結子会社 2社減少
加入団体	RBA・日本溶接協会・エレクトロニクス実装学会・JAPIA・東京経営者協会・商工会議所
発行履歴	今回:2021年10月（前回:2020年10月）
次回発行予定	2022年10月
参考ガイドライン	GRIスタンダード・環境報告ガイドライン・ISO26000 ※GRIスタンダード対照表は弊社CSRウェブサイトに掲載予定です。

免責事項

本報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれていますが、これらの記述は、現時点で把握可能な情報から判断した事項および所信に基づく見込みです。千住金属工業およびその関連会社は、本報告書に含まれる情報もしくは内容を利用することで、直接・間接的に生じた損失に関し、いかなる責任も負わないことをご了承ください。また、本報告書は、参考のために日本語の原文を英語および中国語に訳した報告書も用意しております。日本語版と英語版・中国版に相違がある場合は、日本語版を正しいとみなし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負わないことをご了承ください。

CONTENTS

編集方針・目次	01	TOPICS 1	SMICグループの環境対応製品の歩み	09	環境	環境ビジョン2050によるゼロエミッション社会実現への取り組み	19	マネジメント	ガバナンス	33
トップメッセージ・経営の理念	03	TOPICS 2	研究開発特別対談 レノボ・ジャパン × SMIC	11	環境	環境	20	会社概要・ネットワーク	37	
SMICグループの目指す姿とCSR	05	TOPICS 3	産業分析センター “未来をつくりだす”分析へ	15	社会	お客様とともに	24	購買先様とともに	25	
私たちの生活を支えるSMICグループの製品	07	TOPICS 4	Withコロナへの対応	17	社会	従業員とともに	26	社会貢献活動	30	

Execute 成し遂げる力・闘魂

— 新しい時代を迎えるため、私たちが成し遂げたいこと —

経営の理念

有用な製品を世に供給することで、公器としての使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用な製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和35年6月発表

故 佐藤千壽 名誉会長

社長在任期間 昭和35年6月～昭和53年6月
会長在任期間 昭和53年7月～平成20年5月
名誉会長在任期間 平成20年6月～平成20年10月

持続可能な社会を実現するため SMICが成し遂げたい4つのこと

千住金属工業グループの2021年度CSRレポートをお届けいたします。

近年、持続可能な社会を実現するためには、SDGs(持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)の観点での事業活動が重要となっており、ステークホルダーの皆さまからも期待や要望が寄せられています。千住金属工業グループはそれに応え続けていくため、弊社の経営理念「実力・誠実・闘魂」の闘魂(困難なことにも挑戦し、克服すること)をもって成し遂げていくとの思いで、今年のCSRレポートのテーマを「Execute 成し遂げる力・闘魂 —新しい時代を迎えるため、私たちが成し遂げたいこと—」としました。

千住金属工業グループは、新しい時代を迎えるために、以下の4つの目標を成し遂げることで社会貢献してまいります。

- 1 BCP(事業継続計画)の確立
- 2 カーボンニュートラルの実現
- 3 低温はんだ化の推進
- 4 高信頼性はんだの推進

1つ目のBCP(事業継続計画)の確立ですが、製造拠点の分散化に加え、営業部門・研究部門・管理部門におけるオフィス分散やフレックスタイム、テレワークといった対策を進め、昨年からの世界的に猛威を振っている新型コロナウイルス(COVID-19)などの感染症や、地震や台風などの自然災害が発生しても事業活動を継続できる体制の強化を行います。

2つ目のカーボンニュートラルの実現ですが、はんだの製造における省エネルギー化および、はんだのリサイクルにおける省エネルギー化を推進し、鉱物資源の有効活用と温室効果ガス削減を両立できるサステナブルな生産体制を実現いたします。

3つ目の低温はんだ化の推進ですが、お客様におけるカーボンニュートラルの実現のため、従来よりも低い温度ではんだ付けができ、電気使用量が削減できる低温はんだと、基板内の温度バラツキの抑制・窒素使用量の大幅削減・消費電力の削減・フラックス回収性の大幅向上を実現したはんだ付け装置を開発し提供いたします。

4つ目の高信頼性はんだの推進ですが、5GやIoT、自動運転など社会のあらゆるものがオンラインでつながる、「誰ひとり取り残さない」「救える命を救う」「一人ひとりが生き生きと暮らせる」社会・Society 5.0の実現のため、さまざまな環境にも耐えられる高信頼性はんだを開発し提供いたします。

これら4つの目標を達成させることにより、さらなる投資や事業継続を生み出し、それが我々企業の発展につながります。これが公器としての役割を果たす、持続可能な社会を実現させるために重要なことだと考えています。

お客様からのさまざまなニーズに 応えていくSMICグループ

来年2月に、グループ会社である株式会社産業分析センターが創立50周年を迎えます。産業分析センターは1972年に設立し、はんだなどの非鉄金属の分析、土壌や水質などの環境分析、RoHS・REACHやフタル酸エステル類などの規制物質分析を行ってきました。そしてこのたび、新たな分析事業として、最新鋭の分析装置であるオービトラップを活用し、お客様の開発支援を目的とした成分構造を特定する分析を始めました。こちらに関しては、今後も新たな分析設備を導入し、お客様が望む開発分析の実現を目指していきます。

千住金属工業グループは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆さまからのニーズに応え、持続可能な社会を実現するための事業活動に今後も取り組んでまいります。今後とも、一層のご支援とご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

代表取締役社長

鈴木 一



SMICグループの目指す姿とCSR

千住金属工業グループは経営の理念を基に、ステークホルダーと常に誠実な関係を維持し、持続可能な環境・社会・ガバナンスを実現する優良企業を目指したCSR活動・企業活動を展開しています。重要課題は、RBA (Responsible Business Alliance)の行動規範に規定されている5つの側面およびGRI (Global Reporting Initiative)が推奨するステップ・フローに沿って特定し、優先して取り組むべき事象を整理しています。事業を通じてステークホルダーとともにより良い社会の実現に向けた活動を推進しています。



SMICの事業に係るSDGs重点項目



千住金属工業グループでは、SDGsの実現に貢献できるよう、社会インフラの基盤となる製品・サービスに金属を提供する企業として、事業活動と特に関わりの深い以下の6つのSDGs目標を重点項目として位置づけています。



step 1 重要な課題・事象の特定

- GRI項目の側面や重要なRBA自主監査項目
- 影響を及ぼす範囲の特定

step 2 優先づけ

- ステークホルダーと会社にとっての重要性評価
- 月次CSR会議での定性的・定量的な評価
- ESG経営戦略の立案

step 3 確認

- GRI項目の側面の範囲・影響・期間の評価
- 経営陣による承認と開示

step 4 見直し

- 印刷物等での配布および開示 (日本語版・英語版・中国語版)
- 月次CSR会議にて意見を分析・報告し次回に活用

私たちの生活を支えるSMICグループの製品

SMICグループの製品は、電子機器・モビリティなどの身近な製品から、風力発電機や基地局・鉄塔などの公共設備、そして人工衛星にいたるまで、あらゆるところで使われ、私たちの暮らしを支えています。これからもSMICグループは、トータルソリューションで接合の未来を切り開き、社会に貢献していきます。

● はんだ付け装置

製造メーカー様の工場ではプリント基板と電子部品のはんだ付け実装工程に、千住金属工業のはんだ付け装置が使われています。



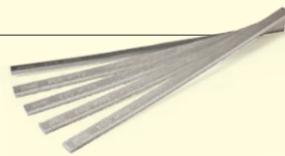
● 材料分析調査

各種材料・製品に含まれる有害物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



● 棒はんだ

はんだ付け装置での基板実装に、千住金属工業の棒はんだが使われています。



● ボールはんだ、ペーストはんだ

スマートフォンやパソコンなどの電子機器や家電製品、太陽光パネルやLEDライト、風力発電機などに、千住金属工業のボールはんだ、ペーストはんだが使われています。



● すべり軸受

自動車などのショックアブソーバーや建設機械の足回りに、千住金属工業のすべり軸受が使われています。



● 環境分析調査

水・大気・土壌に含まれる汚染物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



● プリフォームはんだ

自動車の車載装置に、千住金属工業のプリフォームはんだが使われています。



● スプリンクラー

世界中の住宅・ビル・地下駐車場・公共施設などの消火設備に、千住スプリンクラーの消火用スプリンクラーが使われています。



● 特殊合金

水道铸铁管の防腐表面処理に、千住金属工業の「亜鉛-スズ-マグネシウム合金」が使われています。



SMICグループの 環境対応製品の歩み

2021

この星に想いをつなぐ。次世代につなぐ。
あなたと一緒に新しい時代を迎えるために。

千住金属工業グループは、環境負荷軽減に対する社会の動きにおいて、常に経営の理念である「有用な製品を世に供給することで、公器としての使命を果たす」に基づき、環境対応製品を開発してきました。これからも次世代につなぐ新しい時代を迎えるため、世の中が望む、環境に配慮した新たな価値を創造する製品、持続可能な社会へ貢献できる製品を開発し、世界に供給していきます。

環境負荷軽減に対する社会の動き

1985年
ウィーン条約

1987年
モントリオール
議定書

1988年
オゾン層保護法

2003年
RoHS 指令

2008年
電子業界における
ダイオキシン抑制
の動き

2015年
パリ協定

無洗浄はんだ

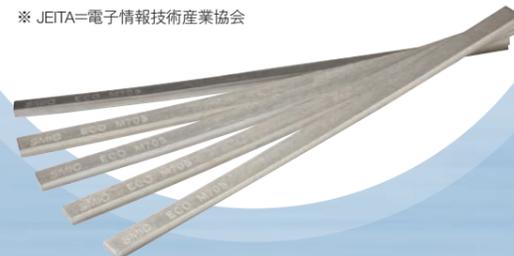
従来はんだ付け後には、残ったフラックスをフロンによって洗浄するのが一般的でした。1980年代になると、フロンによるオゾン層破壊が、有害な紫外線を遮る効果を弱め、人体へ悪影響を与えることが分かってきました。その対策として、はんだ業界においてフロンを使わない無洗浄はんだの開発が進みました。千住金属工業では米国MIL規格に準拠した無洗浄ペーストはんだを皮切りに、無洗浄や入りはんだ、無洗浄フラックスを開発、現在の環境配慮型はんだ製品の礎をつくりました。



鉛フリーはんだ

以前は、スズと鉛のはんだが一般的に広く使われていましたが、鉛は環境や人体に悪影響があることから、1980年代後半に鉛フリーはんだが開発されました。日本ではJEITA[®]が主導となり、国家プロジェクトが発足。トータルバランスが優れた組成としてSn-Ag-Cu系が採択され、千住金属工業は2001年「M705」の商品名で市場にリリースしました。現在では、当時の保有特許を広く公開したこともあり、世界中で使われる業界標準の鉛フリーはんだとなっています。

※ JEITA=電子情報技術産業協会



ハロゲンフリーはんだ

それまでのプリント基板は難燃化のためハロゲンが含まれていましたが、廃棄焼却した際にダイオキシンが発生し、人体や環境に悪影響があるとして、プリント基板のハロゲンフリー化が進みました。それに伴い、はんだを含む電子部品・材料もハロゲンフリー化の動きが加速しました。

千住金属工業でも活性成分として使われていたハロゲンを含まないフラックス材料を開発し、ハロゲンフリー化に対応したはんだ製品を提供しています。



省エネを実現する 低温はんだ

2015年に気候変動を抑制するために世界各国が協力して取り組むことを定めたパリ協定が採択されて以来、世界的に省エネ・低炭素製品の開発と普及が加速しています。昨年、日本でも2050年までに脱炭素社会を目指す政府方針が出されました。千住金属工業では、一般的なSn-Ag-Cu系鉛フリーはんだよりも融点が低い「低温はんだ」を開発しました。これまでよりも約50℃低い温度ではんだ付けができるため、電力使用量が約60%削減可能となります。千住金属工業は、このような「脱炭素のモノづくり」に寄与する製品を開発し続けています。



消費電力を抑えた はんだ付け装置

当社が開発した新型窒素雰囲気リフロー炉は、新しい炉内の熱循環システムを導入して、基板内の温度バラツキの抑制・窒素使用量の大幅削減・消費電力の削減・フラックス回収性の大幅向上を実現し、これまでよりも消費電力を20%以上削減しました。



新しい時代を迎えるため、私たちが成し遂げたいこと

低温はんだおよびLenovoのLTS (Low Temperature Solder:低温によるハンダ付け) プロセスの開発でタッグを組んできましたレノボ・ジャパン合同会社のエグゼクティブディレクターである小菅正氏をお迎えし、千住金属工業株式会社の参事でありハンダテクニカルセンター統轄部長の島村将人と、新しい時代を迎えるために私たちが成し遂げたいことについてお話しいただきました。



リスクを克服し、新しい流れを創出する

司会 今年のCSRレポートのテーマは、「Execute 成し遂げる力・闘魂」ですが、SDGsやSociety5.0、持続可能な社会の実現など新しい時代を迎えるため、これから成し遂げたいこと、実現したいことは何でしょうか。

小菅 昨今はどの企業もESGやSDGsに非常に重点を置いていますよね。我々も日々ESGをどうアピールしていくかを課題に新しい製品開発に取り組んでいるのですが、実はレノボではかなり早い段階からその点を意識したモノづくりをスタートさせています。私は今、コマーシャルセグメント部門に所属しているのですが、SMICさんとは2012年頃から低温はんだの共同開発を行っていて、島村さんもその時にメンバーとして一緒に参加してもらい、感謝しています。2016年にはその低温はんだを使用したレノボ製品であるThinkPadの量産を開始し、今日までに既に累計3,800万台のPCを市場に出荷して

います。SMT^{*1}製法による低温ペーストはんだを使用したLenovo LTS プロセス^{*2}のCO₂削減効果は非常に高く、年間で約7.5tのCO₂削減を実現し、お客様からも非常に喜んでもらっています。

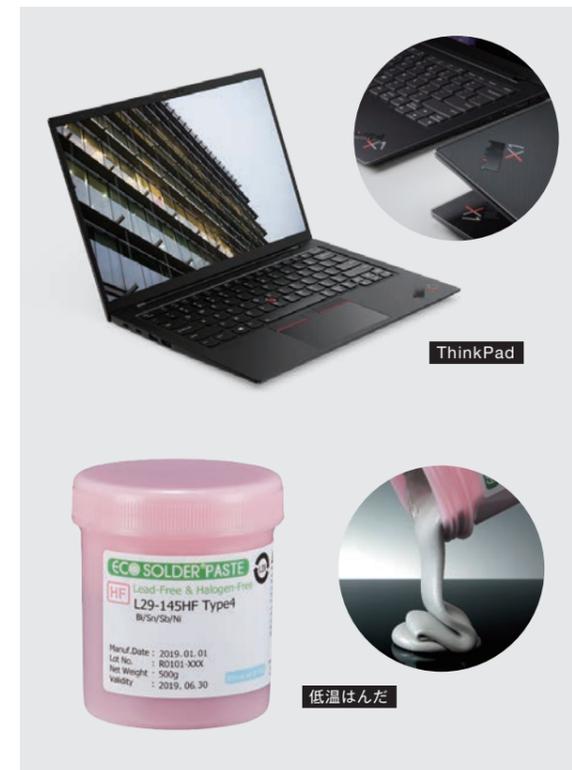
これは、携帯電話、サーバー含めたパソコン業界のなかで、世界に先駆けて世に送り出したSMICさんの低温はんだとLenovo LTS プロセスのコラボで作った製品であり、一つ大きなアピールポイントですね。

今は、サブシステムであるメモリモジュールやカメラモジュール、ワイヤレスカードの低温はんだ化を推し進めています。SMICさんとタッグを組ませていただいた低温はんだを用いたLenovo LTS プロセスは、2020年 Gartner best6 supply chain breakthrough awardを受賞し、既に4,110万システムが当プロセスを元に出荷されています。製造時の温度が低いということで部品の故障が減っているとお客様からうれしいフィードバックをいただいています。

今後はThinkPadのプラスチックパーツと梱包材のリサイク

^{*1} SMT: Surface Mount Technology (表面実装技術)

^{*2} Lenovo LTS プロセス: Lenovo の Low Temperature Solder (低温によるハンダ付け) プロセス



ルの取り組みを進めていきます。

司会 さまざまな企業とタッグを組んでいると思いますが、パートナー企業に求めていることは何でしょうか。

小菅 我々はThinkPadというノートPCのブランドを持っていますが、ブランドイメージとして高品質・高信頼性・堅牢性というところは非常に重要と考えています。例えば堅牢性でいえば、開発当初は低温はんだやリサイクルプラスチックに「もろさ」という懸念がありましたが、パートナー企業と一緒にプロセスを改善して課題を解決しました。このように、ブランドイメージを落とさないために、いかに一緒になって課題解決に向かい努力してくれるかをパートナー企業選びでは重要視しています。

島村 スズとビスマスを使った低温はんだは、かなり昔からある技術ですが、小菅様もおっしゃられたとおり、接合部のもろさという課題があり、エレクトロニクス業界において従来のはんだからの置き換えはスムーズに進めることが難しかったのが現実です。そこをレノボ様は品質的リスクを克服して低温はんだ化を実現し、一つの流れを創出したというのが大きな功績だと思います。

我々もサプライヤーとしてタッグを組ませていただけたのは幸運でやりがいの大きいプロジェクトでした。今後、はんだ以外の部品や素材なども低温化に適したものに変わっていくことが予測され、それによって今まで見えてこなかったような課題に直面することも出てくると思います。そういう面でお互いが新たな課題を克服することができるパートナーでありたいと思っています。

司会 セットメーカーであるレノボ様は、エンドユーザーから常に強い要求を受けながら製品を生み出していると思いますが、材料メーカーであるSMICに対して特に求めることは何でしょうか。

小菅 我々もカーボンニュートラルの実現を目指して、CO₂の削減は今後もさらに進めていく必要がありますので、そのためにはSMICさんの低温はんだも、今よりさらに融点を下げるといった技術的な期待をしています。

島村 カーボンニュートラル実現に向けたはんだ材料としてのアプローチは2つあります。1つは今の低温はんだよりも融点を下げるための別元素・素材による低温材料の開発。もう1つは、はんだ材料を製造する時のエネルギーそのものを下げたり、クリーンエネルギーを使うことです。これが実現できれば、総合的なパッケージとして、持続性や環境に対する負荷の軽減もお約束できると思います。



小菅 正

レノボ・ジャパン合同会社
Distinguished Engineer & Executive Director,
Commercial Subsystem Development, CPSPD

1987年 日本IBM株式会社 入社
2005年 レノボ・ジャパン株式会社 (現レノボ・ジャパン合同会社) に移籍

一貫してPC製品であるThinkPadをメインに電子部品の量産現場における技術開発をリード。近年では、新技術であるLenovo LTSを業界スタンダードとして確立した。



島村 将人

千住金属工業株式会社
参事・ハンダテクニカルセンター統轄部長

Senju Comtek Corp. (米国) 社長を経て
2018年 同テクニカルセンター 統轄部長に就任
2020年 千住金属工業株式会社 参事に就任

リサイクルは使用済み製品の回収がカギ

司会 CO₂削減も含め、どの産業においても環境への配慮は非常に重要です。レノボ様は環境への配慮について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

小菅 例えばですが、プラスチック材料については同業メーカーと協業して、ポストコンシューマーリサイクル*を進めています。これについては、いかに使用済み製品の回収率を上げるかがリサイクル材料の供給安定のカギとなりますので、インフラの整備が重要になります。また、梱包に使われるビニールやシール材にプラスチック素材を使わない動きもあります。これは業界全体で動いていますが、そのなかでもレノボがリードしていて、企業として環境に優しいグリーンプロダクトを強く推し進めています。

*ポストコンシューマーリサイクル:
市場に一度出荷され使用済みとなった製品を回収し、もう一度商品として再生させること

島村 これまでは、環境に配慮した製品を売ることに力が注がれてきましたが、それだけでは売りっぱなしです。お客様がその製品を使われた後、いかにリサイクルして、製品として生まれ変わらせるか。またリサイクルそのものの循環をいかに省エネルギー化・効率化するか。これが、これから我々が克服すべき課題だと思います。弊社では関連会社である

株式会社高橋合金と連携してはんだのリサイクルを行っています。使用済みはんだの回収と仕分けが極めて重要です。弊社のはんだはお客様の要望に合わせてさまざまな元素を組み合わせて作られています。これらを一緒にして特定の金属元素を取り出すよりも、同じ組成のはんだ合金をリサイクルする方がはるかに効率が良いので、そういった仕組みと流れを実現できれば持続的で負荷の少ない資源の循環をご提供できると思います。

司会 リサイクルの他に取り組まれていることはありますでしょうか。

小菅 我々が出荷した製品を使って、お客様がいかにカーボンニュートラルに貢献していけるかというアプローチを始めています。例えば、ThinkPadに搭載しているバッテリーマネジメントシステムによる充電の最適化です。ノートPCを電源に常につないで急速充電を行うと、消費する電力量も増えますし、ノートPCのバッテリー寿命も短くなります。これを必要とときだけ充電されるよう電源管理を行うことで、電力消費を抑えられ、バッテリーの寿命も長くなります。お客様サイドに立っていかにカーボンニュートラルに貢献できるかが、我々の今の課題になっています。

我々をさらなる高みに導いてくれるお客様の声

司会 さまざまなステークホルダーの声に耳を傾け、事業活動に反映させることが、今の企業に求められています。どの声に特に耳を傾けていますでしょうか。

小菅 弊社における大きなお客様は企業ユーザーです。場合によっては一社から何万台と注文が入ります。そういったところで問題が起こった時には即座にフィードバックがきますので、企業ユーザーからの声は非常に大事です。一方で一般ユーザー一人ひとりの声も決して無視はできません。お客様の製品使用後の感想などをWebフォーラムから読み取りしっかり分析するというだけでは、大きなユーザーさんだけではなく、一般ユーザーの意見を、社員各自がネットワークを広げて収集しています。

島村 はんだ材料は非常に裾野の広いプラットフォームを持っている素材で、お客様の分野も多岐にわたります。そのなかで我々の素材に価値を見いだしていただくためには、お

客様の声、ご要望をお聞きすることがまず先決です。ただ、多くのご要望が作業性、品質やコストなど現実視点のなか、レノボ様のようにリスクを取りながら社会と環境の持続性を最優先に取り組まれるお客様は少ないんですよね。そのような新たな挑戦のなかで培われた技術やノウハウはやがてプラットフォームに供給され、世界的な潮流が変わっていく。目先の技術改善や単なる収益性の観点だけではなく、本質的に社会に求められる課題に向き合いながら、我々をさらなる高みに導いてくれる存在という視点で、お客様のご要望をお聞きしていくことが非常に重要だと感じています。

チャレンジし、リスクを取るためにすべきこと

司会 現在のものづくりの現場においては、技術力の高さだけではなく、地球環境や社会環境も視野に入れなければいけません。そういった時代を生きる若い技術者に向けて、お二人からメッセージをお願いします。

小菅 IBM時代から数えて30数年、研究開発部門に所属していますが、製品開発とは「いかにチャレンジし、いかにリスクを取れるか」ですね。そのためには莫大な実験結果を持って、成功する確率を高めることが大事です。でも最後に残ったリスクは背負うのです。若いエンジニアの方は、いいものがあつたらそこに進む度胸を持つことが非常に大事だと思います。このリスクは自分一人ではなく、上長とコミュニケーションをとり、理解を得られた上で取ればよいと思います。だ

からコミュニケーションが非常に大事ですね。日々の実験、結果、実証のもとにリスクをとる。リスクを取らなければ物事は進まないで、そこが非常に大事です。そのために自分の味方となってくれるサポーターを、日々のコミュニケーションによって社内構築していくことが、非常に大事だと思います。

島村 私も入社して26年目になりますが、入社当時の技術や製品はおろか、まだ5年、10年しか経っていないものでも風化していくような変化の速い世界です。ですので、出された問題をただ解決するだけの受動的な姿勢ではなく、次のお客様や市場の心理を感じ取って能動的にテーマを創出して、たとえ失敗しようが正しいと感じたことをやり遂げる姿勢を若い研究者の方たちには期待したいです。そのためには私も管理職も、そのようなエネルギーを引き出せるマネジメントを行えるかも非常に大切なことだと日々感じます。

司会 お二人のお話から、新しい時代を迎えるための思い、そして次の世代への思いが伝わりました。

島村 コロナ禍ということで、今日も対面がかなわず画面越しになりましたが、久しぶりに小菅様のお話を拝聴でき元気になりました。実装のエネルギーは下げても、開発のエネルギーは下げないでいきますので、また次のステージに行くチャンスをいただきたくよろしくお願いいたします。

司会 本日はありがとうございました。





“現状把握”から“未来をつくりだす”分析へ

従来の分析は目的物質の量をはかることが主でしたが、「お客様が困っているところに手の届く分析」「企業の研究開発のお手伝いをする社会貢献度の高い分析」を実現させるため、技術レベル向上を常に意識し、新たな分析設備の導入などにより分析サービスの幅を広げていきます。

高品質・信頼性を支えるとともに、
地球環境の保全・汚染予防に貢献する会社



「知りたい」のニーズに応え、
これまでの分析では未知だった
成分の構造が特定可能に



TOPICS 3 産業分析センター “未来をつくりだす”分析へ

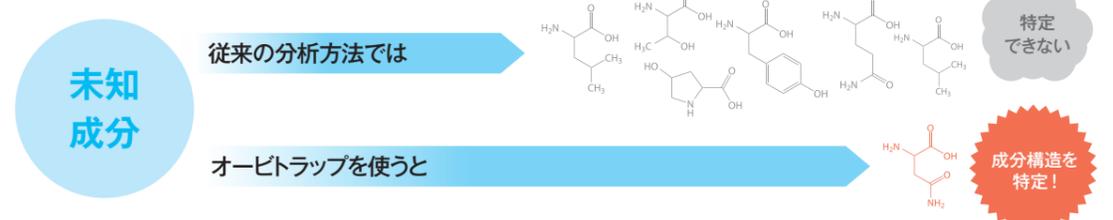
創立50周年に向けて

株式会社産業分析センター（IAS）は、前身である千住金属工業の研究部門から分社化し、2022年2月8日に創立50周年を迎えます。これまで培ってきた非鉄金属材料、環境、RoHS指令に関する高い分析技術を応用し、新たな分野の分析サービスを展開していきます。



高性能な分析装置 LC/FTMS(オービトラップ)を用いた解析

オービトラップは、“知りたい成分”の構造解析に特化した、高性能な分析装置です。従来の分析方法（装置）では、“知りたい成分”の候補を数百種類にまで絞り込むのが限界でした。オービトラップを活用することで、この“知りたい成分”が「何であるか」を特定することができます。



成分が特定できると分かること

- 化成品中成分の構造解析 → 製品の性能差確認
- 分解精製物・不純物の構造解析 → ● 不具合発生時の原因究明
● 非意図的含有成分の確認

製品の研究開発を支え、詳細な情報を得られることや不具合原因を特定できることで、製造技術の向上や新製品の開発につながります。



さらなるニーズにお応えするために

常にお客様から求められている、より精度の高い分析と短納期にお応えし続けるため、今後も「より精密に」「よりスピーディーに」を理念として、最新鋭の分析設備の導入を進めていきます。現在、オービトラップ（有機化合物）に続き、無機化合物においても“前処理が不要”かつ“深さ方向分析”ができ、表面分析にも応用可能な「レーザーアブレーション・ICP・MS」の導入を進めています。



Withコロナへの対応

千住金属工業グループは、事業継続が製造会社の社会的責任であると考え、これまでBCP（事業継続計画）対策を進めてきました。Withコロナの時代においても、その考えに基づいて事業継続を成し遂げられるよう、昨年から継続・発展したさまざまな取り組みを実施しています。

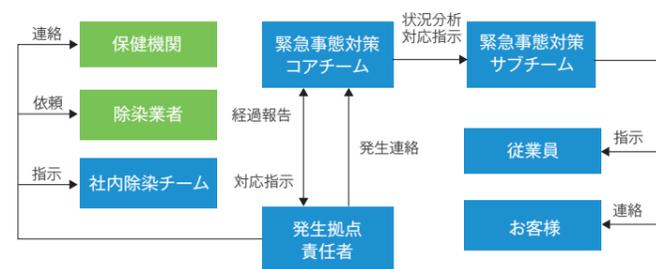
COVID-19陽性者発生時の対応体制

COVID-19 陽性者発生時に速やかな対応が行えるよう、陽性者発生時の対応ガイドラインと対応体制を構築しました。また、事業継続体制の仕組みを活用することで、長期にわたり休業者が発生した場合でも、お客様への製品供給が継続できるように備えています。



陽性者発生時の対応体制組織図

対応組織および社内除染チームを編成し、速やかな対応と現場復旧に努めています。



「グループ応援システム」を導入し 事業を継続できる体制を構築

技能・技術を持った人材の適材適所な配備をグループ会社間でスムーズにできるようにしました。社会ニーズに合わせた技能・技術力の有効活用と従業員の雇用維持を図っています。



リモート技術による新しい形のコミュニケーション

お客様との面会や大人数での会議等が難しいなか、リモート技術の活用による新しい形のコミュニケーションのとり方をさまざまな場面で推進することで、円滑なビジネスの継続を図っています。

ライブ配信システムによるお客様への製品デモ・実験の配信

COVID-19の影響により、これまでの営業にも変革がもたらされました。

これまで自動はんだ付け装置の販売には、お客様に本社に訪ねていただき、製品デモや実験を行うことが欠かせませんでした。COVID-19の影響でそれが難しくなるなか、ライブ配信システムを用いることにより、リモートで行うことが可能となりました。



ライブ配信システムによるリモート監査対応

年間多数実施される顧客監査もライブ配信システムにより、お客様に訪問いただくことなくリモートで受審できるようになりました。また、社内監査でもライブ配信システムを活用することで、拠点間を移動することなく実施できるようになり、業務効率化にもつながっています。



予防対策の取り組み

従業員の安全と健康を守るため、職域接種による早期ワクチン接種の支援や、昨年から実施している感染予防とソーシャルディスタンスの確保に加えて、新しい機器の導入による予防対策の強化を行っています。

産業医と連携しワクチン接種を支援

職場でのワクチン接種の機会を、希望する従業員とその家族に提供することで、夏の間 COVID-19 感染リスクを下げる努力を千住金属工業グループとして行いました。



従来からの消毒、ソーシャルディスタンスの確保、移動制限に加え予防対策を強化

施設入口に非接触体温測定器の導入



CO₂モニタリングによる換気の促進



テレワークの促進と分散勤務の強化

テレワーク対象者を拡大するとともに、テレワークにおけるセキュリティ対策の強化を行いました。また、オフィス分散の強化とフレックスタイム導入により COVID-19 陽性者発生時の影響の限定化を図っています。

Web会議によるリモート営業

会議室需要の増加に応え個室ブースを導入しました。



オフィス分散の強化

営業・間接部門の本社、草加事業所、栃木事業所への分散に加えて、各拠点でのビルディング・階層分けを進めています。



環境ビジョン2050による ゼロエミッション社会実現 への取り組み

千住金属工業グループは、地球温暖化・酸性雨・土壌汚染、水質汚濁などの地球環境問題に取り組むことが、人類の生存基盤に深く関わる重要な課題であり、人類共通の使命であることを認識し、事業活動を通じたゼロエミッション社会の実現に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献します。

環境ビジョン2050

3つの社会の実現を目指して

1 低炭素社会の実現

温室効果ガスゼロ社会への挑戦

企業活動における省エネルギー化の推進

2 循環型社会の実現

資源循環による地球資源の保護

3 自然共生社会の実現

生物多様性の保全と、環境リスクのある有害な化学物質使用ゼロ社会への挑戦

第二次環境プラン

(2020年度～2030年度)

カーボンニュートラルに向けた取り組み

2013年度のCO₂排出量(17,328t-CO₂)の25%分を2030年度までに削減

製品リサイクル推進

3R*材料を100%使用した製品の開発

有害性化学物質の使用量ゼロ

人体と環境に影響を及ぼす化学物質の使用量ゼロ

生物多様性の保全

環境保護活動による生物多様性の保全

*3R=Reduce(発生抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)

環境

環境方針

環境理念

千住金属工業グループは、地球環境保全が人類共通の使命であると認識しています。この使命のもと、持続可能な社会の実現に向けて、地球環境と事業活動との調和を図り、豊かな自然と多様な生態系を守ることに全力を尽くします。

環境管理体制

千住金属工業グループでは、地球環境への負荷を軽減するために必要な措置を講ずる組織として環境委員会を設け、公害防止や環境保全に関する計画の策定、計画実施についての審議などを毎月行っています。また、経営会議で毎年環境のリスクと機会を特定し、それに基づいた環境活動方針を定めています。

環境マネジメントシステム

千住金属工業グループでは、環境活動の指針となる環境理念と環境方針を定めています。国内海外の計16拠点でISO14001を取得し、それに基づく環境マネジメントシステムの構築およびPDCAサイクルを回しています。

また、環境に関する重点テーマ4項目(温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動)について、国内海外の各拠点・各部署が毎年目標と行動計画を定め、環境負荷低減に向けた活動を推進しています。

環境リスク

千住金属工業グループでは、気候変動問題や廃棄物による汚染などさまざまな環境リスクを把握し、環境事故・汚染事故の未然防止のために厳しい自主管理基準を定め、対策を行い運用しています。また、緊急事態が発生した場合に備え、被害を最小化するために緊急事態対応訓練を年1回行っています。2020年度は環境事故・汚染事故は発生していません。今後も環境事故防止対策を継続していきます。

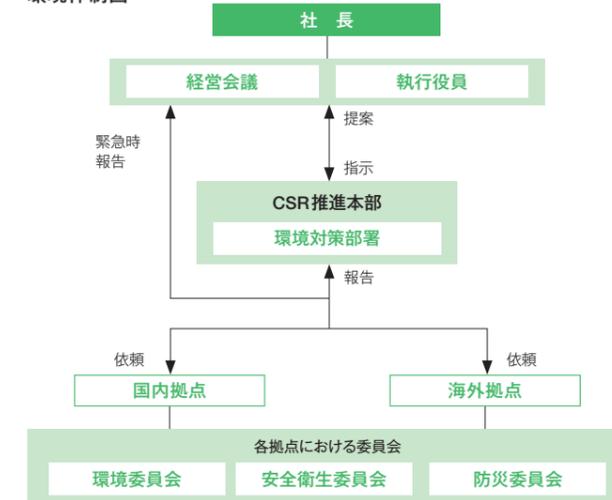
環境教育

従業員の環境への意識向上と環境マネジメントシステムの維持向上のために、環境一般教育(年1回)、ISO14001教育(随時)、廃棄物管理教育(随時)、緊急事態対応教育(緊急事態対応訓練時)などの環境教育を実施しています。

環境監査

環境関係の測定や届出が確実に実施され問題がなかったか、法令で必要な対応が十分取られているかを確認する環境法令遵守評価を年2回、ISO14001の有効性を確認する内部監査を年1回遵守評価者や関係部署長が実施しています。

環境体制図



環境負荷マテリアルバランス

INPUT		OUTPUT	
原材料	13,258 t	温室効果ガス (国内全拠点)	16,921 t-CO ₂
給水量	460,919 m ³	スコープ1	3,129 t-CO ₂
エネルギー		スコープ2	13,792 t-CO ₂
電力量	33,640 MWh	排水量	456,310 m ³
都市ガス	1,214 km ³	BOD	1 t
LPG	19 t	COD	2 t
A重油	16 kl	化学物質 ※PRTR届出対象	14.8 t
灯油	18 kl	最終廃棄物 処分量	0.9 t
ガソリン	87 kl	再資源化量	935 t
軽油	29 kl		
化学物質 ※PRTR届出対象	853.7 t		

国内全拠点の大半を占める栃木事業所のインプット・アウトプット

環境



温室効果ガス削減

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、地球温暖化の防止・緩和のために、事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視・計測することで、エネルギー使用量と温室効果ガス排出量を把握し、省エネルギー化およびCO₂排出量削減活動を推進しています。

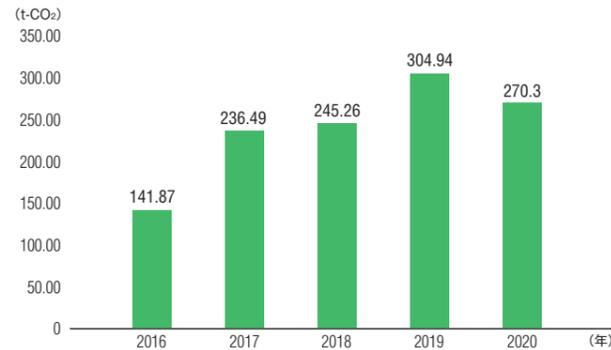
温室効果ガス排出量の削減(スコープ1、スコープ2)

千住金属工業グループでは、製造工場における作業効率の改善や空調機・変圧器などの機器の更新、オフィス・製造工場における照明のLED化など、省エネルギー化のための活動を推進しており、温室効果ガス排出量の削減に努めています。2020年度は、270.3t-CO₂の温室効果ガスを削減しました。

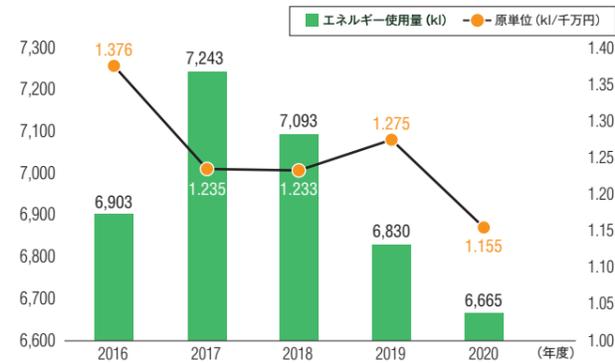
改善内容 (栃木事業所)	年間電力削減予測効果 (kWh/年)
コンプレッサーの省エネ (エア漏れ部の修理、エア消費削減機器の使用)	9,017
待機電力の削減(局排ファンの未使用時停止)	12,799
照明LED化	45,641
設備改善(油圧ポンプ、チラー循環ポンプのインバーター化)	4,743
空調機のカレンダータイマー設定による省エネ	4,594
焼結炉の週末停止	161,089
給水ポンプの更新	811

※2020年度数値

国内拠点 温室効果ガス削減活動実績



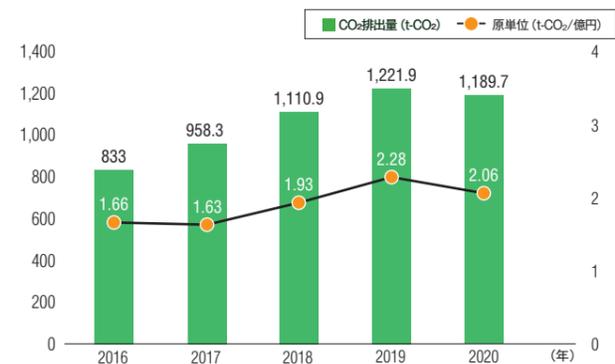
国内拠点 エネルギー使用量と売上高原単位



スコープ3排出量

千住金属工業グループでは、国内の貨物の年間委託輸送量を製品の 카테고리別に輸送区間と距離から算出し、CDP (Carbon Disclosure Project) のスコープ3で要求されている項目のモニタリングを行い、報告しています。2020年度のCDPのスコープ3・カテゴリ-9(下流輸送)の排出量は1,189.7t-CO₂でした。また、従業員の通勤に関するCO₂排出量についてもモニタリングを行っています。製品配送に使うトラック便を集約し、輸送におけるCO₂排出量の削減を図っています。

国内拠点 CO₂排出量と売上高原単位



廃棄物削減・リサイクル

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、3R(廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化)の考え方を基本に廃棄物削減・リサイクル活動を推進しています。

SMICグループのはんだリサイクルシステム

千住金属工業グループでは、約40年前から関連会社である株式会社高橋合金と連携し、はんだリサイクルに努めてきました。2000年代に登場した鉛フリーはんだにより、はんだはそれまでのスズ・鉛の二元素からスズ・銀・銅の三元素の時代に入り、現在ではさらに多元素化が進みました。それに伴い、はんだのリサイクルも多元素に対応した設備が求められるようになり、有害物の発生を極限まで抑制した特殊技術と、独自の精錬方法による高純度のはんだを再生できる、はんだリサイクルシステムを開発しました。昨今、はんだリサイクルの重要度が年々増しており、ここ数年でリサイクル量も倍増し、今後も増え続ける見通しです。

千住金属工業グループでは、鉱物リサイクルがまだ一般的でない時代から、材料メーカーとしてステークホルダーの期待に応えるべく「つくる責任」を果たしてきました。これからも、限りある鉱物資源の有効活用・大気汚染抑制といったサステナブルな社会の実現のため、使用済みとなった自社はんだ製品を自ら回収しリサイクルするシステムのさらなる発展と、さらに多元素化していくはんだのリサイクル実現に向け、積極的に人的資源ならびに技術投資を推進していきます。



はんだリサイクルシステムの流れ



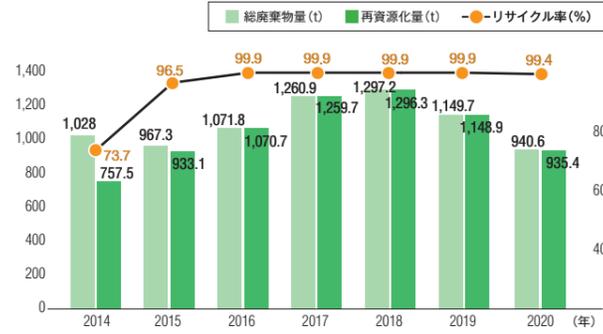
環境



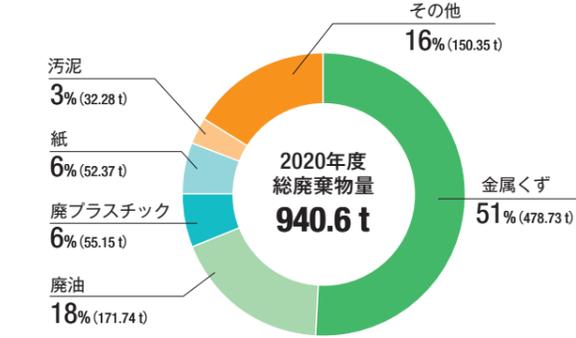
■ 廃棄物排出量削減の取り組み

千住金属工業グループでは、2013年から廃棄物排出量削減の取り組みとして、はんだリサイクルやプラスチック副資材の回収、軸受製品のスクラップ再生などを実施しています。現在、廃棄物におけるリサイクル率99%を達成しています。

国内拠点 総廃棄物量とリサイクル率の推移



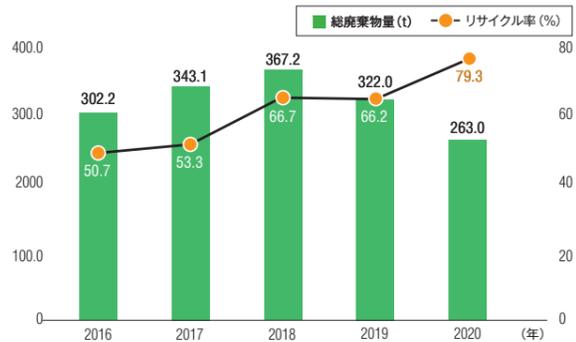
国内拠点 廃棄物量の内訳



■ 海外拠点データと取り組み

千住金属工業グループの海外拠点においては、国内拠点と同様、環境に関する重点テーマ4項目(温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動)に基づいた環境活動を推進しており、製品容器や梱包材の回収とリサイクル、製造設備の稼働管理による電力使用量削減などを行っています。各海外拠点と年1回ミーティングを行い、年度計画および取り組みを把握し、各地域や状況に応じた環境保全への取り組みを促進しています。

海外拠点 総廃棄物量とリサイクル率



有害性化学物質の削減

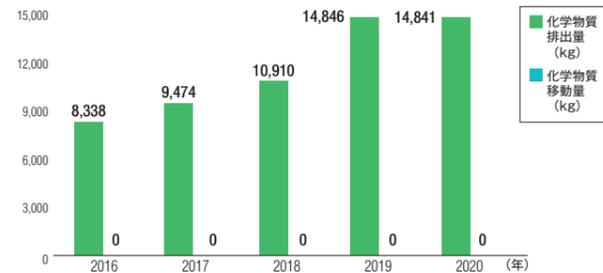
基本的な考え方

人の健康や環境の保護など安心して安全な社会生活を実現していくため、開発・購買・製造・環境部門は環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。特に、環境負荷の大きな化学物質については、使用量削減や使用禁止など、計画に沿って実行しています。また、削減目標を毎年定め、重点的に取り組んでいます。

■ PRTR法指定化学物質の排出・移動量

千住金属工業グループでは、PRTR法にのっとり、該当物質の取引量、排出量、移動量の把握に努めています。

PRTR法指定化学物質の排出・移動量の推移



■ 土壌・地下水の汚染対策

千住金属工業グループでは、土壌・地下水の汚染対策のため、下記の取り組みを行っています。

また、緊急事態対応訓練や汚染水の流出防止のためのリスク教育などを行い、汚染防止に努めています。

土壌	自主的な成分分析(年1回実施)
水質・地下水	最終排水口と地下水の点検(残留塩素、pH など、毎日実施) 排水と地下水の成分分析・測定(毎月実施)
雨水	自主的な成分分析(年2回実施)

お客様とともに



製品の品質・安全確保

基本的な考え方

千住金属工業グループは、「品質・安全性方針」を定め、お客様に安心して製品をお使いいただくために、製品のライフサイクルを通じて品質の向上に取り組んでいます。

《品質・安全性方針》

1. 関連法規制及び顧客要求を遵守し、品質や安全性に配慮した製品・サービスの供給を通して顧客満足の上昇を図ります。
2. 定められた品質マニュアルに従って、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、維持するとともに、その有効性を継続的に改善します。
3. 品質方針・品質目標を定めて活動するとともに、定期的にまた必要に応じてレビューし、マネジメントシステムの改善の機会(間隔、頻度、場面)についての評価も行います。
4. 品質マネジメントシステムの変更の必要性も評価し、変更が必要な場合は、経営の理念に照らして適切性を維持するためにレビューします。

■ 品質マネジメントシステム認証取得

千住金属工業グループ(国内・海外)の製造拠点において、国際規格であるISO9001を21拠点で取得しています。また、自動車産業の品質マネジメントシステムであるIATF16949認証では、国内・海外の計16拠点で取得しています。

■ 品質向上への取り組み

千住金属工業グループでは、納入・工程・受入における不具合をなくすために、年間の品質活動計画を策定し、各部門が目標を立て不具合の削減に取り組んでいます。不具合が発生した場合は再発防止対策をまとめ、分析結果を次年度の改善計画に落とし込み、継続的にPDCAサイクルを回すことで品質改善を行っています。グループ全体の品質レベル向上を目的に、優れた成果をあげた海外工場へ品質優秀表彰を行っています。

■ CS向上への取り組み

千住金属工業グループでは、CS(顧客満足度)向上に努めています。お客様への提案や共同開発、技術セミナーや技術交流会、営業活動や技術革新の向上に励んでいます。それらを評価いただき、2020年度は右記の賞をいただきました。

■ 製品含有化学物質管理

人の健康や環境の保護などを目的とした欧州の化学品規制法であるRoHS指令とREACH規則に対応するため、環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。専属者によるチーム体制を敷き、当社製品に関する化学物質調査の対応をしています。

■ 品質監査

千住金属工業グループでは、グループ会社を含む国内製造拠点と営業拠点において、IATF16949認証のための内部品質監査を、はんだ部門と軸受部門で年2回行っています。また、国内と海外のすべての製造拠点を対象に、定期品質監査を年1回行っています。

■ 品質不正の防止

千住金属工業グループでは品質不正防止のため、1972年に関連会社である産業分析センターを設立し、一般的に内部で行われている検査・分析工程を第三者機関である産業分析センターが行っています。その分析結果を基に合否判定することにより、検査工程における不正や偽装を防いでいます。



REACH規則においては、取り扱う化学物質の本登録を完了しており、購買先様からのSDSを入手し、第31条および第32条に基づきお客様へ情報を伝達しています。また、GHS「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」に適合した、SDS・GHSラベルをお客様に提供しています。

購買先様とともに



調達活動

基本的な考え方

千住金属工業グループは、調達に関する法令と経済産業省の自動車産業適正取引ガイドラインを遵守し、購買方針としての基本姿勢（購買先様に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実な調達を行う）と、購買先様との調達におけるCSR調達方針を定めています。

また、購買先様に求める基本姿勢として、IATF16949・ISO9001・ISO14001要求事項とRBAが規定するサプライチェーン・アセスメントのガイドラインを参考に、法令・社会規範の遵守や緊急事態発生時の事業継続と復旧計画の推進など14項目をお願いしています。

調達を通じた社会への貢献と、購買先様との良い関係を築くため、今後も調達コンプライアンスを遵守し、安心して安全なサプライチェーンの確立に取り組んでいきます。

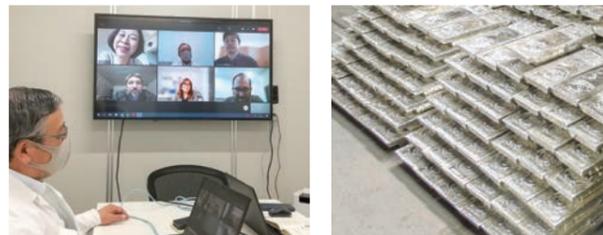
CSR調達方針

- 1 千住金属工業株式会社「品質・安全性方針」
- 2 千住金属工業株式会社「環境方針」
- 3 千住金属工業株式会社「購買方針」
- 4 千住金属工業株式会社「購買先様に求める基本姿勢」
- 5 納入品に対して配慮いただきたいIATF16949の要求事項
- 6 納入品に対して配慮いただきたい環境管理上の要望事項

CSR調達への取り組み

千住金属工業グループでは、調達部門および関連のある開発・製造部門が、年間計画に従い国内外の購買先様への監査を実施しています。2020年度も、国内外の購買先様にサプライチェーン・アセスメントのご協力をいただき、問題のないことを確認しています。

また、COVID-19の影響下においても、購買先様とWebでのミーティングを行い、コミュニケーションに努めています。



責任ある鉱物調達への取り組み

2011年1月にRBA (Responsible Business Alliance) に加盟し、電子業界のお客様と密接な関係を構築してまいりました。2014年からはRMI (Responsible Minerals Initiative) 会員として、製錬所に対しRMAP (Responsible Minerals Assurance Process) の受審と第三者認証取得を積極的に働きかけ、2015年2月に調達先の製錬所がすべてRMAP認定されています。

今後はこれまでの紛争鉱物から、より広範囲なリスクに対応した「責任ある鉱物調達」のため、引き続きすべての調達先製錬所にRMAP認定の更新を呼びかけ、千住金属工業の製品の安心して安全なサプライチェーンの持続を目指していきます。



購買先様に求める基本姿勢

- 1 法令・社会規範の遵守
- 2 人権・労働への配慮
- 3 安全衛生への配慮
- 4 贈収賄の禁止と公正取引
- 5 健全な事業経営
- 6 品質・納期・安定供給の提供
- 7 非常事態への備えと事業継続
- 8 環境への配慮
- 9 責任ある鉱物調達の推進
- 10 VE (Value Engineering) 活動の重視
- 11 情報提供の重視
- 12 情報セキュリティ
- 13 反社会的勢力との関係排除
- 14 社会貢献

従業員とともに



人材に対する考え方

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、従業員は重要な財産であると考え、従業員一人ひとりの人権と個性を尊重するとともに、多様な人材が成長し活躍できる職場環境の整備に努めています。

人権の尊重

人権・労働に関する基本方針

千住金属工業グループでは、CSR基本方針およびCSR実践目標において、人権と労働に関する方針と目標を定め、経営の理念にある「実力・誠実・闘魂」を抱き、生き生きと働ける環境づくりに取り組んでおります。

また、ハラスメントは絶対にあってはならないという考えのもと、「ハラスメント防止教育」を行い、従業員に啓蒙しています。

公正な評価と自己申告制度

千住金属工業では、能力開発のための適切な指導と人材育成への活用のため、人事考課を年2回行い、社員の勤務成績および能力を公平・公正に評価し、昇格・昇給・賞与に反映しています。また、職場環境の改善を目的とした自己申告制度を設け、社員一人ひとりに仕事や職場環境について、どう考えどのように望んでいるのか年1回アンケートを行い、社員がより一層活躍できるよう改善に取り組んでいます。

人材育成

千住金属工業グループでは、全従業員が絶えず新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人を養成することを目指しています。教育実施規定に基づき効果的なやり方を検討し、階層に応じた教育や全従業員を対象とした教育を実施しています。

また、2020年度よりはんだ付けの品質・技能向上を目的とした「はんだ付け技能検定」を実施しています。社内はもとより将来的にはお客様向けにはんだ付けスクールを開催するなどの発展を目指し、千住金属工業グループの新しい文化として根づくよう今後も取り組んでいきます。



はんだ付け技能検定

教育支援制度

千住金属工業では、社員が大学や大学院に進学し、より高度かつ先端の知識や技術を習得することを目的とする、奨学資金支給制度を設けています。また、社員が自発的に自己研鑽に励み、より高度な技能や知識を習得することを支援するため、「特殊技能取得に関する助成」を行っています。

	階層別研修		職能別教育訓練	テーマ別・自己啓発	実地研修
	集合研修	通信教育			
上級管理者	マネージャー研修 (上級編)	実力管理者基礎コース (新任)	営業マン研修 上級編	はんだ付け技能検定	OJT
中級管理者	マネージャー研修 (初級編)				
初級管理者		実力管理者基礎コース (新任)			
中堅社員	中堅社員研修	中堅社員上級編 中堅社員初級編	営業マン研修 初級編 営業技術職研修		
新入社員	新入社員フォローアップ研修 新入社員研修	新入社員向け通信教育			

従業員とともに



労働安全衛生

基本的な考え方

千住金属工業グループは、安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止するために必要な基本的事項を明確にし、従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的とする安全衛生管理規定と安全衛生方針を定めています。

安全衛生方針

1. 我々は労働基準法、労働安全衛生法に基づき安全衛生活動の充実を図り、快適な職場環境の形成を促進します。
2. 会社は安全衛生管理体制を確立し、労働災害を未然に防止するために、必要な措置を組織・職制を通じて積極的に推進します。
3. 社員は法令及び会社が定める規則を遵守し、労働災害防止と健康保持増進に努めます。

労働安全衛生マネジメント

法令に基づき、各拠点で規模に応じた安全衛生管理体制を敷き、年間活動計画書を作成し活動目標と重点活動項目を定めて、計画書に従い安全衛生活動を行っています。

労働災害発生状況

当社の労働災害発生率(災害度数率)は、全国の製造業の平均を下回る水準を維持しています。

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
災害度数率	0	0.47	0.49	0	0.92

※労働災害度数率：(休業災害件数+不休業災害件数) / 総労働時間 × 1,000,000

安全教育

安全衛生に関する知識と技能の習得のため、従業員に以下の教育を随時行っています。

- 雇入れ時教育訓練
- 作業内容変更時教育訓練
- 危険・有害業務従事者特別教育訓練
- 職長教育訓練(職長教育訓練から5年経過した従業員を対象にしたリフレッシュ教育を含む)
- その他監督者安全衛生教育訓練
- 危険・有害業務従事者に対する安全衛生水準向上のための安全衛生教育訓練
- 有資格者への教育訓練(フォークリフト運転者等)

職場に応じたサポート

製造工場では、夏場の熱中症予防として塩分補給食品の配布や健康対策として牛乳を配布するなど、従業員が健康・安全に働けるようサポートしています。

健康維持

千住金属工業では、法令に基づく健康診断および相談窓口設置等の他、社員の私傷病の治療に関する負担を軽減するため、会社負担によるがん保険への加入や一カ月間に医療機関で発生した医療費の一部を会社が負担する制度を設け、社員の自己負担を軽減しています。

各種制度	頻度・期間	内容	
健康管理	一般健康診断	1回/年	従業員に対し一般健康診断または生活習慣病健診を実施 また、希望者には生活習慣改善を促す指導を実施
	生活習慣病健診	2回/年	
	特殊健康診断	2回/年	法令で定める有害な業務に従事する従業員に対し、特別の項目について健康診断を実施
	ストレスチェック	1回/年	アンケートを実施し、個々にメンタルヘルスケアへの気づきやアドバイスを提供
福利厚生	がん保険制度	25歳以上	がん保険に社員を加入させ保険料を会社が負担することで、社員の不慮のがん罹病による負担を軽減
	医療費会社負担制度	都度	社員の私傷病の治療に要する医療費の一部を会社が負担
その他	相談室設置	随時	産業カウンセラーによる職場や仕事に関する悩み相談の実施

働きやすい職場づくり

基本的な考え方

千住金属工業グループは、仕事と生活の両立のための支援や従業員相互の親睦および福祉の向上のための活動組織の運営など、従業員が生き生きと活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。また、勤怠管理システムによる労働時間と在社時間の把握による長時間労働の抑制・指導など、従業員が安心して働けるためのさまざまな対策・改善を行っています。

仕事と家庭の両立支援

千住金属工業グループでは、従業員が仕事と家庭を両立し、安心して仕事ができるよう、育児・介護休業法に基づいた育児休暇制度と介護休暇制度を設けています。

また、当社は従業員の申し出による所定労働時間短縮の措置を講じています。実際に小さなお子様を持つ従業員の多くが利用し、子育てとキャリアを両立しています。

従業員相互の親睦および福祉の向上

従業員相互の親睦を図ることを目的とした「千友会」による班活動・レクリエーションを主催しています。また、従業員を代表して職場環境改善や就業上の安全確保等を目的とする「労務委員会」を設け、働きやすい安全な職場の実現と会社の発展に寄与すべく活動しています。



鬼怒ヶ丘工場敷地内にて、千友会向けのご狩り体験イベント

ダイバーシティ

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、人種、性別、経歴、年齢、価値観、家族構成、生き方などさまざまな「違い」を尊重し、積極的に生かすことで、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに効果的に対応しています。また、従業員一人ひとりの可能性を信じ、能力が発揮できるよう、「幸せを感じ、より長く、安心して、働きがいのある職場を実現する」ことを目的に、ダイバーシティに取り組んでいます。

女性の活躍推進

千住金属工業では、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、女性の活躍推進に取り組んでいます。

研修・セミナーの実施

ニーズや状況等に応じた研修やセミナーを随時実施し、従業員の意欲向上を図っています。

障がい者の雇用

千住金属工業グループでは、従来より障がい者雇用に取り組んでおり、障がいのある方が安心して生き生きと働けるよう職場環境を整備しています。

「ダイバーシティ勉強会」の実施

ダイバーシティ勉強会では、毎回「従業員同士の違い」に焦点を当てたテーマを定め参加者自らの経験や状況を話し、参加者同士で自分の考えやアドバイス、工夫を述べたりしながら「気づき」を得ています。また、従業員同士、従業員と会社の相互理解を深め、より働きやすい環境を整える機会としています。

2020年度はCOVID-19の影響による移動制限を逆手に取り、TV会議システムを活用することにより事業所をまたいだ勉強会を開催することができました。「テレワーク従事者」や「子育て中の社員」の苦勞と工夫を意見交換する等、全6回行われ計55名が参加しました。



従業員とともに



従業員データ

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
従業員数					
国内	1,584人	1,694人	1,731人	1,747人	1,761人
海外	601人	643人	627人	631人	596人
計 ※()内は女性比率	2,185人(37.3%)	2,337人(35.0%)	2,358人(36.0%)	2,378人(36.8%)	2,357人(37.5%)
正社員					
男性	—	—	1,233人	1,242人	1,201人
女性	—	—	569人	533人	530人
契約社員					
国内	—	—	518人	488人	468人
海外	—	—	38人	115人	158人
計 ※()内は女性比率	—	—	556人(50.2%)	603人(56.6%)	626人(56.4%)
管理職(国内)					
男性	104人	100人	105人	116人	119人
女性	5人	5人	6人	7人	9人
女性管理職者比率	4.59%	4.76%	5.41%	5.69%	7%
管理職(海外)					
男性	—	—	—	74人	47人
女性	—	—	—	42人	38人
女性管理職者比率	—	—	—	36.21%	44.7%
採用状況					
男性	34人	44人	79人	47人	23人
女性	14人	16人	23人	18人	19人
計	48人	60人	102人	65人	42人
離職率(入社3年後)	20.8%	10.0%	15.6%	16.9%	17.59%
各種休暇制度					
平均有給休暇取得日数/年(日)	8.65日	7.4日	9.8日	8.5日	9.08日
有給休暇取得率	57.50%	59.41%	62.63%	62.49%	58.2%
育児休暇取得者数	11人	8人	12人	10人	22人
育児休暇復帰率	100%	100%	91.70%	100%	100%
介護休暇取得者数	0人	3人	1人	0人	1人
介護休暇復帰率	100%	33%	100%	100%	100%
労働時間					
平均所定外労働時間/月(h)	14.2時間	13.7時間	15.6時間	14.4時間	9.03時間
障がい者雇用					
障がい者雇用人数	21人	18人	17人	16人	16人
障がい者雇用率 ※()内は法定雇用率	2.6%(2.0%)	2.2%(2.0%)	2.2%(2.2%)	2.1%(2.2%)	2.02%(2.3%)

社会貢献活動



自然環境保全

荒川水辺サポーター

本社 | 2020.11.7 | 6名



もおか環境パートナーシップ会議

栃木事業所 | 4回/年間 | 67名



里山保全ボランティア

関西事業所 | 2020.6.28 | 5名



ライチョウ基金への協賛

千住システムテクノロジー | 2021.3.16



呉羽丘陵竹林整備ボランティア

千住システムテクノロジー | 2020.11.1



市役所へ再生材の寄付

Senju Solder (Phils.) Inc. | 2021.1.30



社会貢献活動



文化・教育・地域交流

中学校技術科授業へのはんだ材料提供

本社 | 2020



谷塚駅東口周辺イルミネーション事業への協賛

草加事業所 | 2020.12.6



貧困地域の子どもたちへの図書の寄付

千住金属（上海）有限公司 | 2020.12.24



COVID-19 支援イベントへの協賛

Senju (Thailand) Co.,Ltd. | 2020.5.3. | 10名



イルミネーションイベントへの協賛

郡山営業所 | 2020.11.13



熊野神社稚児舞への協賛

千住システムテクノロジー | 2020.8.25



障がい者団体への寄付

台湾千住電子股份有限公司 | 2020.3.28

女性支援団体への寄付

台湾千住電子股份有限公司 | 2020.11.13



石洞美術館



千住金属工業本社ビル内にある石洞美術館は、美術工芸を通じた国際間の文化交流、相互理解の促進、我が国の文化の向上を図るため、2006年4月に公益財団法人美術工芸振興佐藤基金によって設立されました。所蔵品は、故佐藤千壽名誉会長の収集したコレクションを核としており、美術館の名称は佐藤の雅号「石洞」から採っています。

石洞美術館では、地域の皆さまに美術を楽しんでいただく活動として、所蔵品を中心とした企画展や「コンサートinミュージアム」などのイベントを開催しています。



喫茶「妙好」



足立区障害者団体連合友愛会*では、東京都足立区内のさまざまな施設で喫茶業務や売店業務を行い、日々障がい者の方々に働く場を提供しています。

千住金属工業本社社屋の一角にある喫茶「妙好」もその中の1つで、足立区内の障がい福祉施設に所属する知的障がいを持つ方々を受け入れ、仕事を通し、社会とのつながりを持つ機会を提供しています。

妙好での仕事を通し、一人で公共交通機関を使い移動する機会を増やし、電話連絡、喫茶業務、パンの販売など一つひとつ細かい作業をこなすことでその積極性・自主性を養い、より高い社会性が身につくようにサポートしています。

千住金属工業でもその活動に賛同し、本社ビルが現在の社屋に建て替わった2005年以降、喫茶スペースの提供、光熱費の負担、社内打ち合わせ時のドリンク注文などを通じて、その活動への援助を行っています。

*東京都足立区で視力障がい、聴覚障がい、手足の障がい、知的障がい、事故・病気等による中途障がいを持つ方とそのご家族の団体が集まり、お互いの障がいへの理解、親睦と働く場の提供を目的に約40年前に作られた団体



ガバナンス

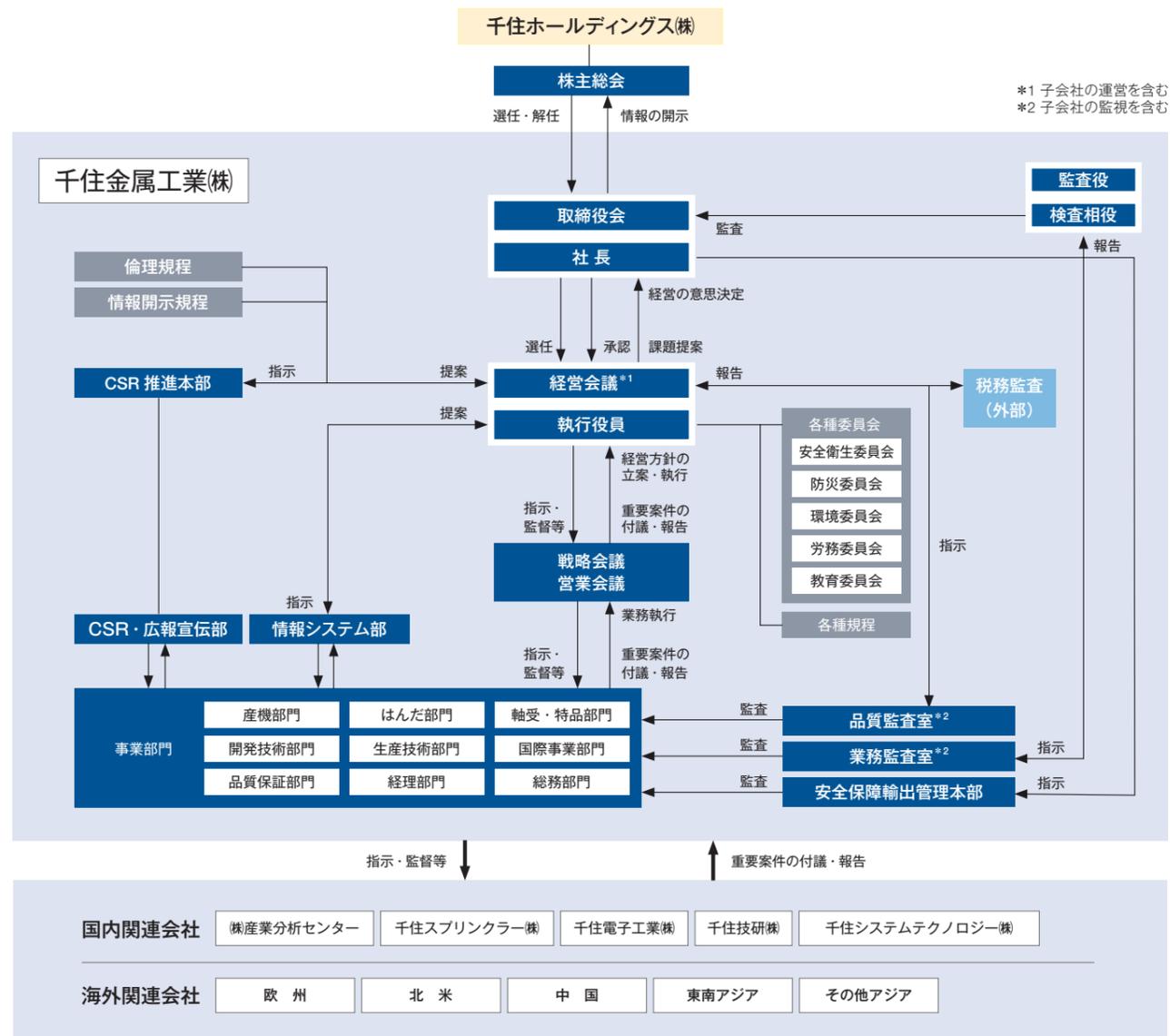
コーポレートガバナンス

基本方針

千住金属工業グループは、健全かつ公正で透明性の高い経営を維持し、時代の変化に合わせてながら経営体制を整備・運用し、企業統治体制を構築していきます。
また、すべてのステークホルダーに対して公平性を持って情報を開示することにより説明責任を果たすことを基本方針としています。

コーポレートガバナンス体制

法令に基づく株主総会・取締役会に加え、監査役・検査相役や税務監査の配置とCSR推進本部・経営会議・戦略会議の整備などにより、ガバナンスの強化に努めています。



取締役会と業務執行体制

取締役会

取締役5名と監査役1名、検査相役1名で構成され、関係法令および定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、執行役員等の任免と経営会議からの上程の決議を行います。取締役会の審議・決定の指標として、別途倫理規程、情報開示規程を定めています。

経営会議

取締役、執行役員等により構成され、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定もしくは承認します。また、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項については取締役会に上程します。経営会議の審議・決定の指標として、別途各種規程、BCP管理規程、危機管理規程、情報セキュリティ規程を定めています。

執行役員制

執行役員制を導入しており、取締役会により選任された執行役員部門長が、所轄する部の分掌を統轄し管理を行っています。会社の事業計画に基づき所轄する部の事業計画を立案し、実行しています。担当役員として所轄する部の指導に当たり、重要事項を直接指揮しています。

コンプライアンス

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、経営の理念をコンプライアンスの要と考え、CSR基本方針に基づいたコンプライアンス基本方針と実践目標を定めています。従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの方針・目標・規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。
また、千住金属工業グループのCSR基本方針およびCSR実践目標において、公正取引・倫理事項を遵守し、運用しています。

コンプライアンス活動の状況

千住金属工業グループでは、事業活動に関わる各種法令を遵守するため、各種教育（CSR教育、環境教育、購買先様への調達方針教育、安全保障輸出管理教育）と内部監査、購買先様への監査を実施しています。

内部監査においては、業務監査部門による健全な企業コンプライアンス維持を目的とした、外為法に基づく「安全保障輸出監査」、RBA行動規範に基づく「CSR監査」、社内外の機密情報の取り扱いに関する「情報セキュリティ監査」を国内海外の全拠点に対して実施しています。2020年度はグループ会社を含む国内拠点においては、COVID-19禍における対策としてリモート監査を実施しました。各監査での是正事項は各部署にて速やかに対策を講じ、継続的なマネジメントシステムの改善へとつなげています。

監査監督体制

監査役・検査相役

監査役1名と検査相役1名を選任しています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役と検査相役は、取締役会に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすとともに法令に準拠した活動を行っています。

取締役・監査役・執行役員紹介

	氏名	執行役員	取締役会	経営会議
代表取締役社長	鈴木 良一		○	○
代表取締役常務	長谷川 友秀	○	○	○
常務取締役	川又 勇司	○	○	○
取締役	佐藤 有香	○	○	○
取締役	奥野 哲也	○	○	○
監査役(社外)	佐藤 昭壽		○	
検査相役	坂口 和年		○	○
理事	大竹 基之	○		○
理事	石井 泰博	○		○
理事	田中 節夫	○		○
副理事	角屋敷 敏丸	○		○

2020年度監査実績

(単位:実施件数)

監査対象	業務監査	安全保障輸出	特定荷主
千住金属工業	67	35	17
グループ会社(国内)	33	3	3
グループ会社(海外)	0	0	0
委員会、その他	0	0	0
合計	100	38	20

社内通報窓口制度(スマイルメール)の設置

すべての従業員の人権に関する問題(ハラスメント等)やコンプライアンスに関する問題(法令や社内規程違反、企業倫理や社会的規範等の問題)に対して匿名で相談・通報できる専用の内部通報窓口(スマイルメール)を設置し、不正行為等の早期発見と是正を図っています。

ガバナンス

リスクマネジメント

考え方、 リスクマネジメント 活動	千住金属工業グループは、サプライチェーンの上流に位置する企業の責任として、下記のリスクを想定し、各リスクに対処するための専門部署・委員会を設置し、リスクに対する未然防止および損失を最小限に抑える対策を実施しています。
----------------------------------	--

想定されるリスク

- ・地震や台風などの自然災害リスク
- ・情報漏洩や不正アクセスなどの情報セキュリティリスク
- ・特許侵害や技術流出などの知的財産リスク
- ・ハラスメントなどの人権・労働に関するリスク
- ・新型インフルエンザや COVID-19 などの感染症リスク
- ・安全保障貿易などの輸出管理リスク
- ・気候変動問題や廃棄物による汚染などの環境リスク

など

事業継続への取り組み

各種リスクの評価・分析・対策を行い、被害を最小限にとどめ、事業の継続能力を高めるためのリスクマネジメントの構築と、生産体制の早期復旧を図るための推進体制、「設備等災害復旧実施計画書」などの行動計画を定めています。

また、災害などの緊急事態により生産困難な拠点があつた場合、国内海外の他拠点と連携して生産が継続できるようバックアップ体制の強化を行っています。

防災訓練の定期実施

千住金属工業グループでは、地震や火災などの災害から従業員の生命を守るため、消防署や警備会社の指導のもと、避難訓練・消火訓練・救命講習(AED講習)を毎年実施しています。

また、管轄消防署が実施している総合防災訓練にも参加し、地域社会との連携強化に努めています。



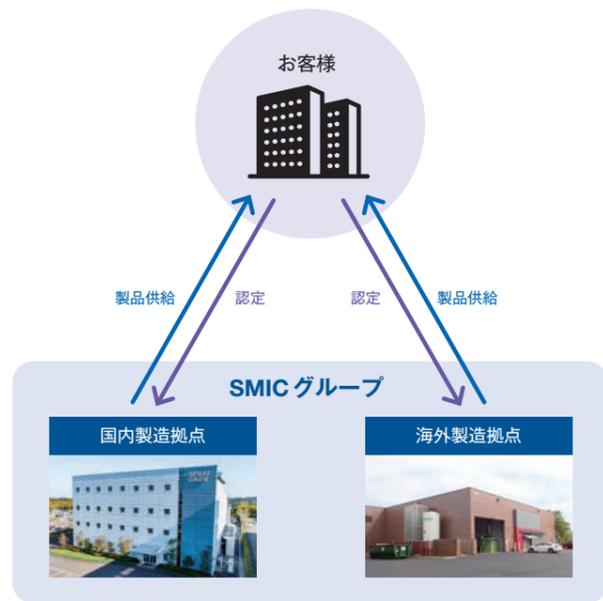
救命講習(AED講習)

企業秘密管理・個人情報保護

千住金属工業グループは、「企業秘密管理規定」「個人情報保護規定」を定め、会社が保有する個人情報や、お客様・取引先様の情報などを管理し、機密情報の漏洩防止に努めています。

また、GDPR(EU一般データ保護規則)などの法規に関しても適切な対応を行っています。

安定供給のための生産バックアップ体制



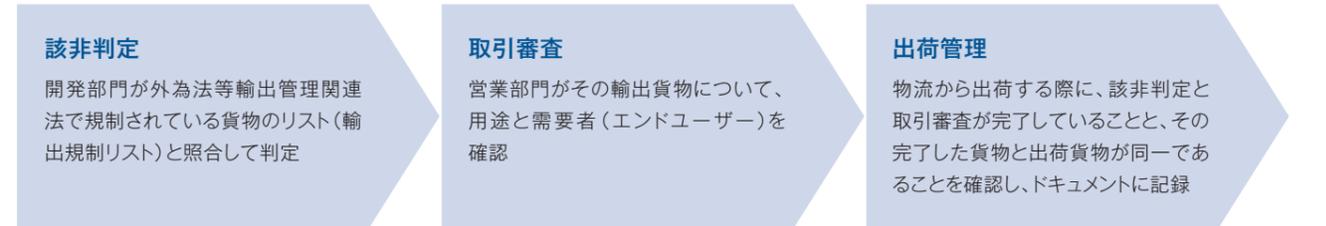
情報セキュリティ

近年発生しているサイバー攻撃による被害に鑑み、情報セキュリティの管理運用を一層強化しています。情報システム部門は基本的な行動計画を策定し、被害が発生した際の封じ込めや、迅速な復旧ができるように、脅威を検知する能力を向上させ、確実なバックアップの取得を行っています。サイバー攻撃の手法は日々変化していますが、従業員にルールや脅威に対する教育を定期的に行い、情報セキュリティの重要性を啓蒙しています。

安全保障輸出管理

千住金属工業グループは、国際平和と安全の維持のための法律である外国為替及び外国貿易法(外為法)などの法令を遵守し、大量破壊兵器などの不拡散、通常兵器の過度の蓄積防止、各国間の貿易摩擦などの問題に対し、輸出に関して管理を行うことにより秩序を保っています。適切な輸出管

理を実施するために、安全保障輸出管理の最高責任者に代表取締役社長を置き、その直下に安全保障輸出管理本部を設置し、輸出管理体制の整備と充実を図っています。また、セルフチェックによる各部署への監査を実施しています。



規程類や教育実施に関しての届出や、内部監査を年1回実施することで、規程遵守を維持しており、経済産業省より安全保障貿易管理に係る自主管理体制を整備している企業として認知されています。*

*経産省による「輸出管理内部規程を作成し実施している企業名の公表」より
https://www.meti.go.jp/policy/anpo/compliance_programs_pdf/20210401_kouhyougenkou.pdf

安全保障輸出管理教育

当社では毎年、該非判定や取引審査、出荷管理の担当者向けに、安全保障輸出管理の教育を行っています。(2020年度は40部署に実施)

また、経営陣を対象とした教育や、関連法令を分かりやすく説明した教育資料を作成し、各部署への教育も行っています。

知的財産

千住金属工業グループでは、日々開発・製造部門から生み出される製品・技術に関して知的財産制度を有効活用することにより、適切な権利化・秘匿化を行っています。また、他者の知的財産権を尊重しながら独自の技術開発に力を入れています。

これらの知財活動を通じて当社の事業活動を支え、持続可能な環境社会へさらなる貢献をしております。



特許権等保有状況

SMICブランドの保護、価値向上を目的として知的財産権の取得、維持、管理を行っています。

(2021年5月現在)

特許		商標	
国内	海外	国内	海外
515件	1,690件	113件	421件

知的財産教育

千住金属工業グループでは、主に開発技術部門を対象に、定期的に勉強会を開催し、特許取得方法、ノウハウ管理、特許検索などを中心とした実践的な取り組みを行い、製品開発・製造リスクに対する管理向上に努めています。



千住金属工業株式会社

■国内事業所

- 栃木事業所
松山工場 / 鬼怒ヶ丘工場
- 草加事業所
- 関西事業所
西脇工場 / 中工場
- 中部事業所

■国内営業拠点

- 東北主管営業所 (仙台)
- 北上営業所 / 郡山営業所
- 中部主管営業所 (名古屋)
- 松本営業所 / 富山営業所
- 関西主管営業所 (大阪)
- 関西特別営業開拓室 / 京都営業所 / 姫路営業所
- 九州主管営業所 (福岡)

会社概要

千住金属工業株式会社 / 千住金属工業グループ
SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.

DUNS# 690663091

設立 1938年4月15日
本社所在地 〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
代表取締役社長 鈴木 良一

■事業規模

売上高 (連結) 78,424 百万円 (2020年4月1日～2021年3月31日)
資本金 (単体) 400 百万円
従業員数 (連結) 2,357 人 (2021年3月31日時点)

■事業内容

- ・金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- ・金属の粉末および軸受の製造・販売
- ・はんだ付け用溶剤ならびに接着剤の製造・販売
- ・はんだ付け装置の製造・販売
- ・消火装置部品の製造・販売 (関連会社事業)
- ・前記に関連する機械設備の製造・販売
- ・社内派遣業

主要関連会社一覧

▶日本

- 株式会社産業分析センター
- 千住スプリンクラー株式会社
- 千住電子工業株式会社
- 千住技研株式会社
- 千住システムテクノロジー株式会社

▶アメリカ

- Senju America Inc.
- Senju Comtek Corp.
- Senju Fire Protection Corp.

▶ヨーロッパ(ドイツ、チェコ)

- Senju Metal Europe GmbH
- Senju Manufacturing Europe s.r.o.

▶アジア

- Senju (Malaysia) Sdn. Bhd.
- Senju Trading (M) Sdn. Bhd.
- Senju (Thailand) Co., Ltd.
- Senju Solder (Phils.) Inc.
- 北京千住電子材料有限公司
- 北京千住消防器材有限公司
- 千住金属 (天津) 有限公司
- 上海千寿企業管理咨询有限公司
- 千住金属 (上海) 有限公司
- 千住金属 (惠州) 有限公司
- 千住金属 (香港) 有限公司
- 千住電子材料 (香港) 有限公司
- 台灣千住電子股份有限公司
- 日商千住金属工業股份有限公司 高雄分公司
- 韓國千住金属株式會社

本社



国内事業所



栃木事業所 松山工場



栃木事業所 鬼怒ヶ丘工場



草加事業所



関西事業所 西脇工場

国内関連会社



産業分析センター



千住スプリンクラー



千住電子工業



千住技研



千住システムテクノロジー